

しないのめいめいおこれ 市内の命名アレコレ

市内各所の命名には、それぞれ不思議とも思える由来が存在するとかしないとか…？

云われは所説ありますが、そんな命名の一端を、地元をこよなく愛する農業委員が、伝え聞く由来について、ご紹介させていただきます！

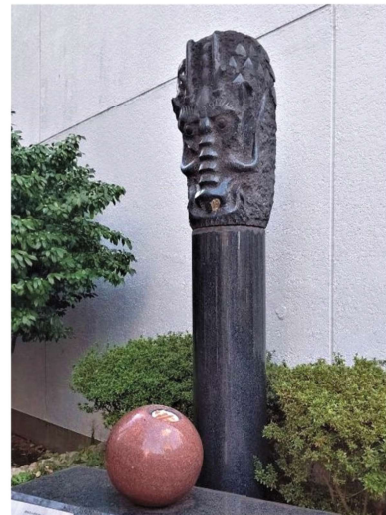
(農業委員 熊野美幸)

九頭竜さま(聖蹟桜ヶ丘駅東側)

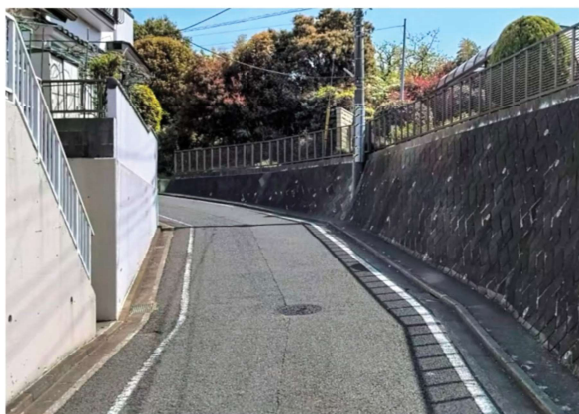
昔の多摩川は洪水の度に氾濫が起きていました。

中世のとある洪水で、川上から流れてきた九頭竜さまを、関戸村の人々は、洪水を鎮める神として祀ったそうです。明治43年の大洪水は凄まじく、関戸にある耕地は全部水没しましたが、奇しくも小野神社の森と九頭竜さまの丘だけは、水没を免れたと言われています。

また、九頭竜さまは、子供の歯痛を和らげる神としても崇敬を集めていました。祈願して治癒すると、山の萩を切って来て束ね、奉納したということです。



▲九頭竜公園内にあるモニュメント



▲東寺方の急坂

尻っぴり坂 (東寺方)

今でも急勾配な東寺方小学校の西側にある坂は、舗装されていない砂利道だったころ、荷車を引いて上るのは、さぞかし大変だったことと容易に想像ができるほどの急坂です。

上るときに、勢い込んで体に力が入ってしまい、思わず“おなら”が出てしまったことから、地域の方々は、この坂を「尻っぴり坂」と呼んでいるそうです。

山の婆坂(グミガ坂・東寺方)

東寺方小学校の南にある宝泉院側は、その昔、大きな樺が生い茂った山でした。反対側は一面竹藪で、清水が流れる昼なお薄暗い坂道だったとのこと。

山の中に「山の婆」と呼ばれる老女が一人で住んでおり、1.8mを超える身長に、歯をまっ黒に染めた風貌で、いつも大きなざるに小豆を入れて磨いていたとのこと…。そして、人が通りかかると、その大きなザルを頭からかぶせ、捕えては食べてしまった、という恐ろしい言い伝えがあります。その恐ろしさが、別名「お化け坂」の云われであるのかもしれませんが…。



▲別名「お化け坂」もとい「山の婆坂」

農家経営・くらしに役立つ様々な情報をお届けします

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

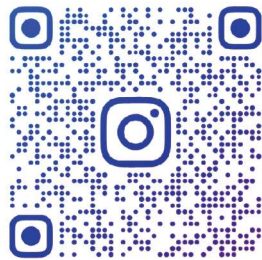
■毎週金曜日発行
■月額700円(送料・税込)
■お申し込みは
多摩市農業委員会事務局へ
TEL 042-338-6848

農業者年金

■農業者年金は、積立方式で加入・受給者数に左右されにくい公的年金です。
■貯金感覚でメリットを受けましょう。

■お問い合わせは、
多摩市農業委員会事務局へ
TEL 042-338-6848

豊かな老後に備えて、安心できる農業者年金へのご加入を！



IKIKIICHI

多摩市農産物直売所
いきいき市
詳しくは左記へアクセス！

多摩市の農産物応援サイト あぐりあぐり

多摩市の農業を「くわしく知りたい」「身近に感じたい」と思ったら、多摩市の農産物応援サイト「あぐりあぐり」をご覧ください！

多摩市の農業の「イマ」がよくわかる、旬な情報が満載です！

<https://agriagri.net/>
へ今すぐアクセス！➡



▲「農業委員会等功労者表彰」の企業的農業経営顕彰(野菜部門)をご夫婦で受賞された小暮和幸・敦子ご夫妻様

祝

おめでとうございます！

農業委員会等功労者表彰

令和6年2月15日に、昭島市FOSTERホールで「第65回東京都農業委員会・農業者大会」が開催され、多摩市から1組の農業者が表彰されました。
受賞されたお二方、誠におめでとうございます！

適切な農地管理・保全にご協力をお願いします!!

農地は大切な限りある資源であり、**正しく適切に耕作**されてこそ、その存在価値が発揮されるものです。

特に**生産緑地**に指定されている、あるいは**相続税納税猶予制度の対象**となっている農地については、**税制上も優遇**されていることから、より**適切な農地管理**が求められます。

農業委員会による農地利用状況調査や農地パトロール実施時に指摘されることがないように、**日ごろから適切な農地管理・保全**に留意されますよう、ご協力をお願いします。

また、調査の際には、農地に立ち入り確認をする場合がありますので、農地所有者の皆様のご理解・ご協力を重ねてお願いいたします。

農地についてご意見・ご相談がある場合は、各担当地区の農業委員や農業委員会事務局へご連絡ください。

多摩市農業委員会事務局 Tel042-338-6848(直通)



▲農地調査時のようす

農家の皆様・農地を相続した方へ

農地を相続したときは、農業委員会へ届出が必要です！(農地法第3条の3)

この届出は、**法務局への相続登記とは別に必要**な手続です。

▶対象者＝相続等(相続、遺産分割、包括遺贈など)によって農地の権利を取得した方

▶届出先＝農地の所在する市町村の農業委員会

※相続発生日からおおむね10か月以内に届出が必要です

※届出を行わなかった場合、10万円以下の過料が科される可能性があります。

相続したが、地元を離れていて管理ができない場合等は、管轄の農業委員会へお問い合わせください

▼農林水産省HPで農地の相続に係る届出や登記、税の特例措置などの情報を発信しています。ご活用ください

農地相続ポータル



令和6年11月13日に、小金井市商工会館で、女性農業委員等研修会があり、多摩市の女性農業委員として参加しました。

今回参加した女性農業委員の数が、昨年と比べて増えている印象があり、農業委員活動に女性の力がしっかりと根付いてきているものと感じられました。

小金井市農業委員会の会長職務代理者である松嶋あおいさんから「食育と女性農業委員の活動」について発表がありました。発表の中で松嶋さんは、問題に対して果敢に立ち向かい、地域を繋げようと積極的に努力されていることのほか、市民が、暮らしの中に、少しずつでも都市農業の大切さと楽しさを取り入れて行けるように奮闘されている様子が、お話の中から伺い知れ、そのバイタリティに感嘆させられました。

発表と活発な意見交換の後、多摩市にはない取り組みを行っている「わくわく都民農園小金井」

へ視察に向かいました。「わくわく」と銘打っているだけに、期待感いっぱいのまさにワクワクした気持ちで見学させていただきました。



▲わくわく都民農園小金井を見学

「小金井市観光町おこし協会」が運営し、シニア農園・子供農園・地域農園・福祉農園・共菜園など、様々な形態の農園がある都民農園小金井では、いろいろな人が、種々の目的で寄り集まり、多種多様な交流の場になってい

女性農業委員等 研修会



参加報告

ることに加え、市内産の旬の野菜も味わうことができたり、お買い物やワークショップも楽しめたりという、まるでたくさんの農のピースが、ひとまとまりのコミュニティになっているように感じました。

願わくば、将来多摩市に完成するであろう農業公園も、市民と協力・連携して、ひとつのコミュニティとして発展できる、そんな場所にできたら、農業者にとっても、市民にとっても、どんなに素敵な場所になるのでしょうか…と、すこし夢見がちな気分にはさせられた研修会でした。

(農業委員 青木幸子)

また、これらに加え、若い保護者からは、「オーガニック給食」を求める声も大きいものがあると聞いており、地場野菜の納入拡大も期待されている現状



▲すべては種を蒔くことから…

多摩市の農家が丹精込めてつくった野菜や果実が、学校給食の食材として献立にのぼり、子どもたちの成長に直接関係していることに、重い責任感を覚えますが、経済的な面でも、子どもたちの成長を後押しする政策がすすめられたことは、大きな意義を持っていると考えます。

都市にある農地を守り、子どもたちの食を支える取り組みが、ますます重要になっていくことにより、やりがいを感じながら、今後多摩市の農業を、一歩でも前へと進めていくため、畑を耕し種を蒔く、という初心に立ち返り、今後も活動を続けていきます。

(農業委員 武内好恵)

編集 へんしゅう ざっかん 雑感

農業委員会だよりを編集して、この一年間の委員会活動を振り返り、また、大きく変化した部分や、思っていた部分などが、いろいろ実現することができ、いろいろな気づきがありました。

消費者意識が多様化する中で、農業が応えなくてはならない事案も、さらに広義に、さらに細分化されて増えていくことでしょう。

これらの変化をつぶさに感じ取り、検証しながら、農業委員会が、農家と手を携え、実りある成果を目指して共に進んでいく一助になりたい、と願わずにはいられません。